

放課後等デイサービスの支援員に求められる支援実践能力の 予備的検討～インタビュー対象者を拡張して～

Preliminary investigation about skills requiring for staff of after-school day service

○小幡 知史¹・渡辺修宏²

Obata Satoshi, Watanabe Nobuhiro

NPO 法人だいち放課後等デイサービス事業所樹の子クラブ¹, 国際医療福祉大学²

NPO Daichi After-school day service KINOKO Club, International University of Health and Welfare,

Key words:放課後等デイサービス, 支援員, 支援実践能力

目的

放課後等デイサービス事業所に対する全国実態調査では、回答者の半数近くが、「十分な知識・技能・経験をもった職員が少ない」と指摘している。小幡・小幡 (2016) は、放課後等デイサービスに従事する職員を対象として半構造化面接を行い、放課後等デイサービスの支援員に求められる支援実践能力について報告した。本研究では、小幡・小幡 (2016) の調査対象を拡張し、放課後等デイサービスに関わる福祉従事者にインタビューを行い、支援員に求められる支援実践能力について明らかにすることを目的とした。

方法

調査対象は、放課後等デイサービス等での勤務経験年数が3年以上の福祉従事者9名であった。職種の内訳は、児童指導員2名、保育士1名、児童発達支援管理責任者3名、園長1名、相談支援専門員2名であった。調査内容は、放課後等デイサービス従事する支援員に求められる能力であり、データ収集方法は、半構造化面接法だった。データの分析は、階層的クラスター分析であった。倫理的配慮として、研究参加者に、研究の趣旨、参加・不参加の自由、途中中断が可能なこと、得られたデータは個人が特定されない方法で分析することなどの個人情報保護について事前に説明し、同意を得た。

結果と考察

9名から聞き取り調査を得た。調査に要した時間は1人あたり30分から1時間であった。得られたデータから目的に沿うものを抽出し、階層的クラスター分析にかけた結果、12のクラスターが抽出された(図1を参照)。

12のクラスターを概観して言えることとして、放課後等デイサービスの支援員に求められる支援実践能力の中には、支援を実践するスキルだけでなく、その子の発達の特性などに関する幅広い知識や、利用児本人だけでなく家族に対しても支援できることが必要と考えられていることであった。

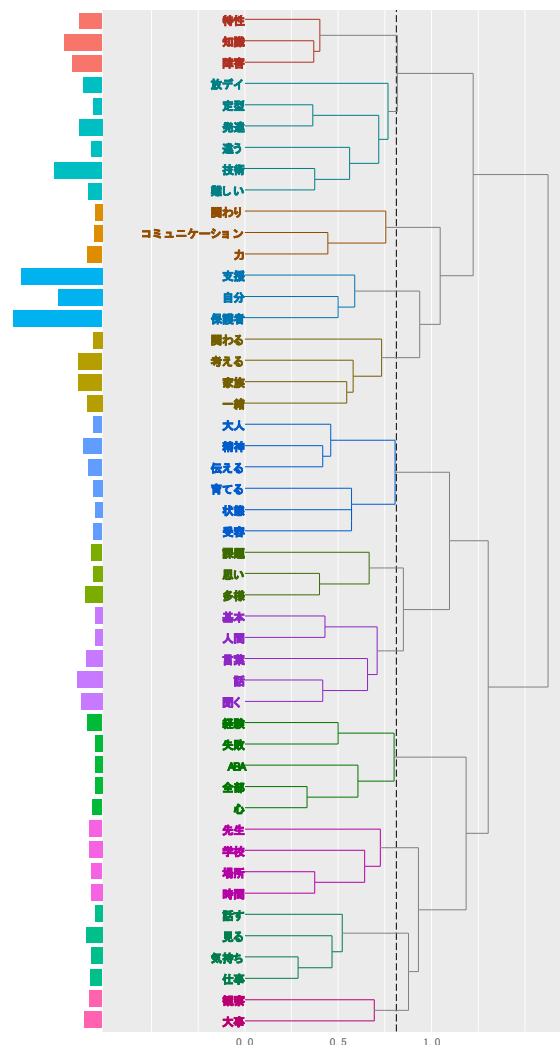


図1. 階層的クラスター分析の結果

上記の結果は9名から得られたデータであり、データの内容等において偏りがあることも予想される。今後も調査を継続し、対象者を増やして分析を行うことで、理論的飽和を目指す。そして、支援員に必要な能力の概念構成を明らかにし、実践能力の自己評価ができるような項目の作成を目指す。